

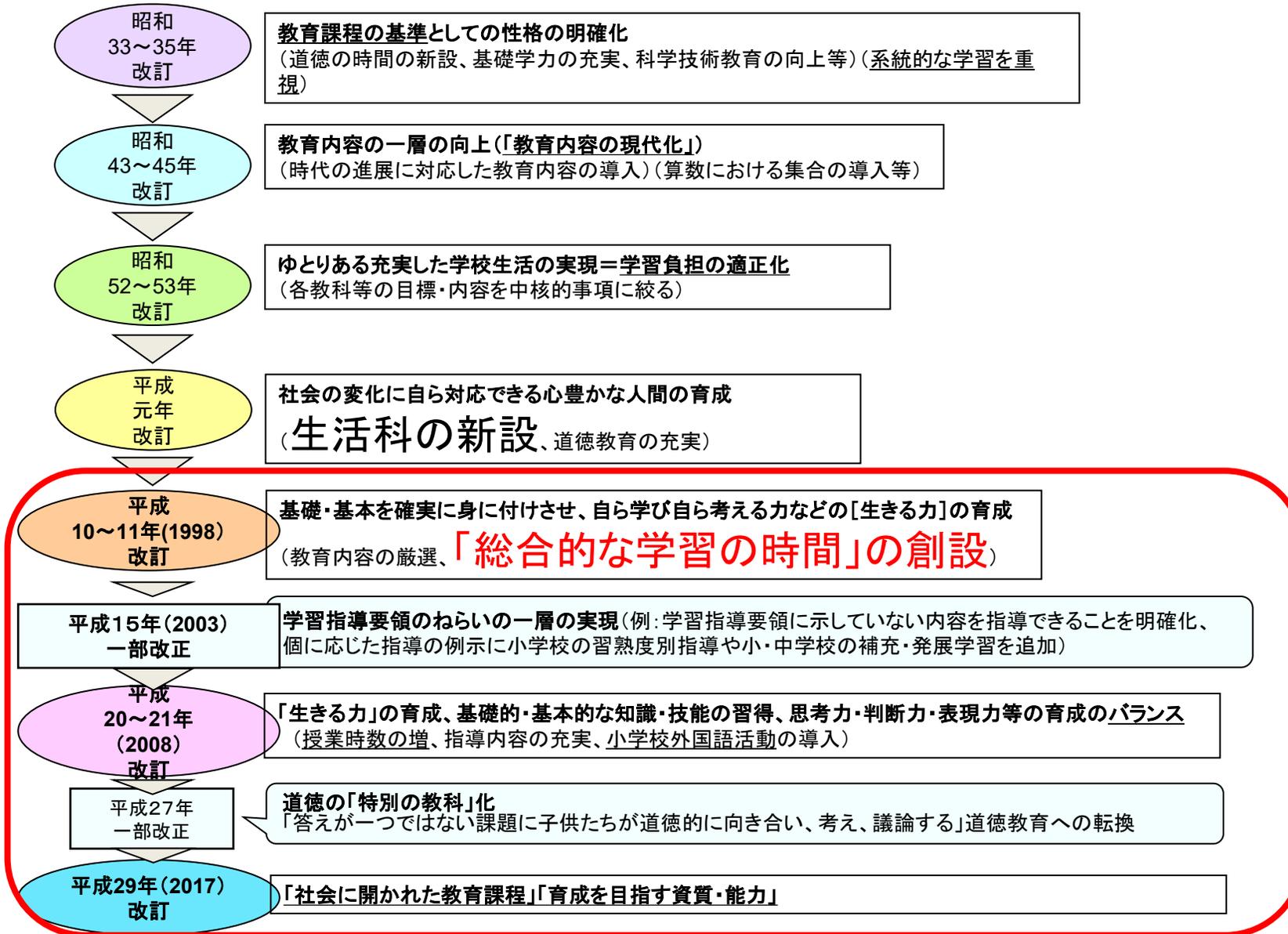
# 総合的な学習（探究）の時間の変遷と質的転換

2025/05/22

文部科学省初等中等教育局主任視学官

田村 学

# 学習指導要領の変遷



# 総合的な学習(探究)の時間の経緯

\* 昭和51年以来の研究開発学校等において実践研究

## ○平成10年(1998):学習指導要領の改訂

総合的な学習の時間の創設

- ・各学校が創意工夫を生かした特色ある教育活動
- ・教科等を超えた横断的・総合的な学習

## ○平成15年(2003):学習指導要領の一部改正

総合的な学習の時間の一層の充実

- ・各教科等の知識や技能等の相互関連
- ・各学校における目標・内容の設定と全体計画の作成
- ・教師による適切な指導や教育資源の活用

## ○平成20年(2008):学習指導要領の改訂

総合的な学習の時間の必要性和重要性の再確認

- ・時間数を縮減
- ・各学校で設定する位置付けの明確化
- ・横断的・総合的な学習や探究的な学習の推進

## ○平成29年(2017):学習指導要領の改訂

総合的な学習(探究)の時間を中核とした教育課程編成

- ・総則に教育課程上の役割を明記
- ・目標、内容の改善
- ・教科横断的なカリキュラムマネジメントの中核

小3・4	小5・6	中1	中2	中3	高等学校
105	110	70 ～ 100	70 ～ 105	70 ～ 130	105～210 時間
70	70	50	70	70	3～6単位
70	70	50	70	70	3～6単位

# 総合的な学習(探究)の時間の経緯

\* 昭和51年以来の研究開発学校等において実践研究

## ○平成10年(1998):学習指導要領の改訂

総合的な学習の時間の創設

- ・各学校が創意工夫を生かした特色ある教育活動
- ・教科等を超えた横断的・総合的な学習

## ○平成15年(2003):学習指導要領の一部改正

総合的な学習の時間の一層の充実

- ・各教科等の知識や技能等の相互関連
- ・各学校における目標・内容の設定と全体計画の作成
- ・教師による適切な指導や教育資源の活用

## ○平成20年(2008):学習指導要領の改訂

総合的な学習の時間の必要性和重要性の再確認

- ・時間数を縮減
- ・各学校で設定する位置付けの明確化
- ・横断的・総合的な学習や探究的な学習の推進

## ○平成29年(2017):学習指導要領の改訂

総合的な学習(探究)の時間を中核とした教育課程編成

- ・総則に教育課程上の役割を明記
- ・目標、内容の改善
- ・教科横断的なカリキュラムマネジメントの中核

### ①「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について(第一次答申)」中央教育審議会(平成8年7月)

平成8年の中央教育審議会の「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」の第一次答申は、21世紀を展望し、我が国の教育について、[ゆとり]の中で[生きる力]をはぐくむことを重視することを提言した。この[生きる力]を児童にはぐくんでいくためには、[生きる力]が全人的な力であるということを踏まえ、横断的・総合的な指導を一層推進することが有効であるとされた。また、いずれの教科等にも関わる内容をもった現代社会の課題などを扱うことが求められていることから、**一定のまとまった時間を設けて横断的・総合的な指導を行う**ことが提言された。

### ②「幼稚園、小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校の教育課程の基準の改善について(答申)」教育課程審議会(平成10年7月)

①の答申を受けた教育課程審議会では、平成10年7月に答申をまとめた。答申においては、四つの柱を基本に据えた。その上で、各学校が**特色ある教育活動を展開する時間**が必要であること、社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を育成するための時間を確保することなどとして、『**総合的な学習の時間**』の創設が提言された。さらには、ねらいや学習活動、教育課程上の位置付け、授業時数、評価などが示された。

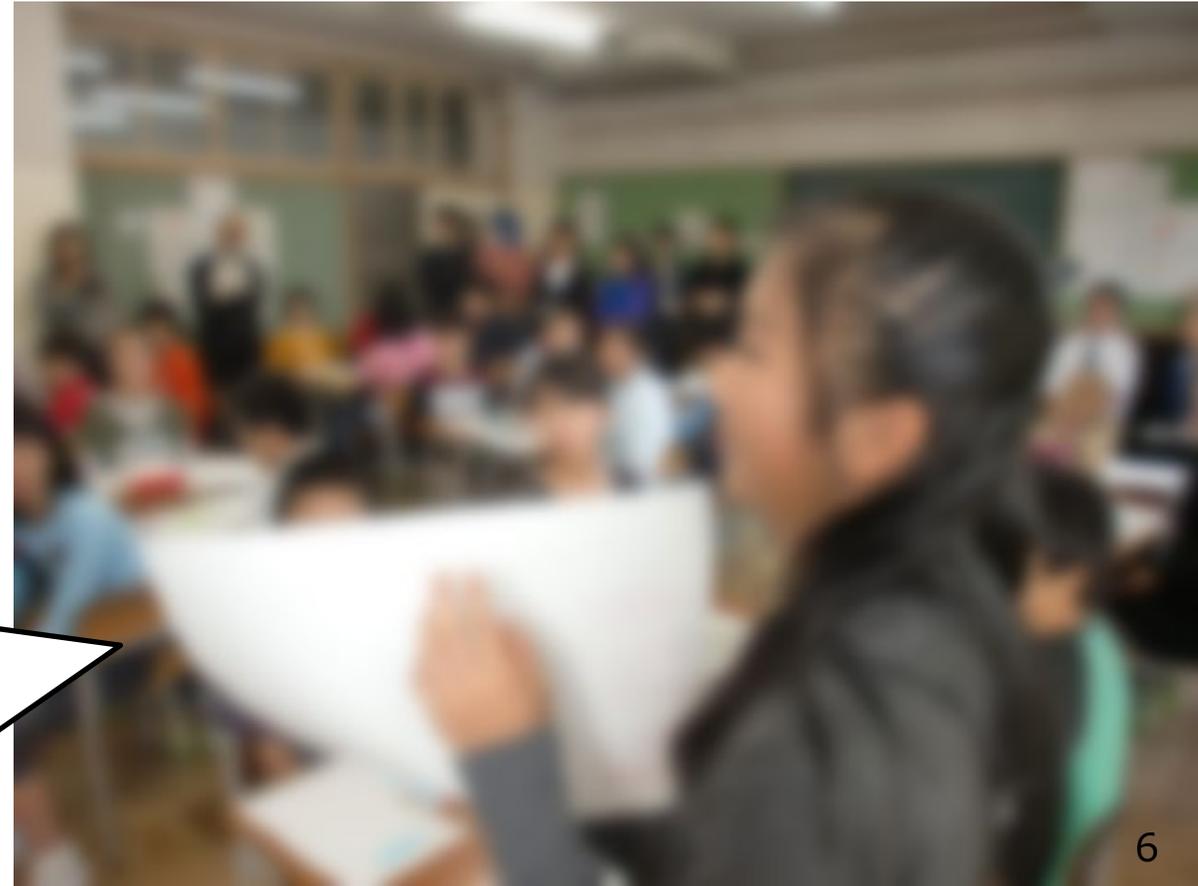
### ③学習指導要領の改訂・告示(平成10年12月:小中学校、平成11年3月:高等学校)

各学校が、地域や学校、児童の実態等に応じて、横断的・総合的な学習や児童の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を行う時間として、**第3学年以上の各学年に『総合的な学習の時間』を創設**した。学習指導要領では、第1章総則の第3総合的な学習の時間の取扱いにおいて、趣旨、ねらい、学習活動、配慮事項などが示された。その時数は、小学校3・4年生が105単位時間、5・6年生が110単位時間とした。ちなみに、中学校1年生が70～100単位時間、2年生が70～105単位時間、3年生が70～130単位時間、高等学校が105～210単位時間として設定された。

## 小学校 総合的な学習の時間

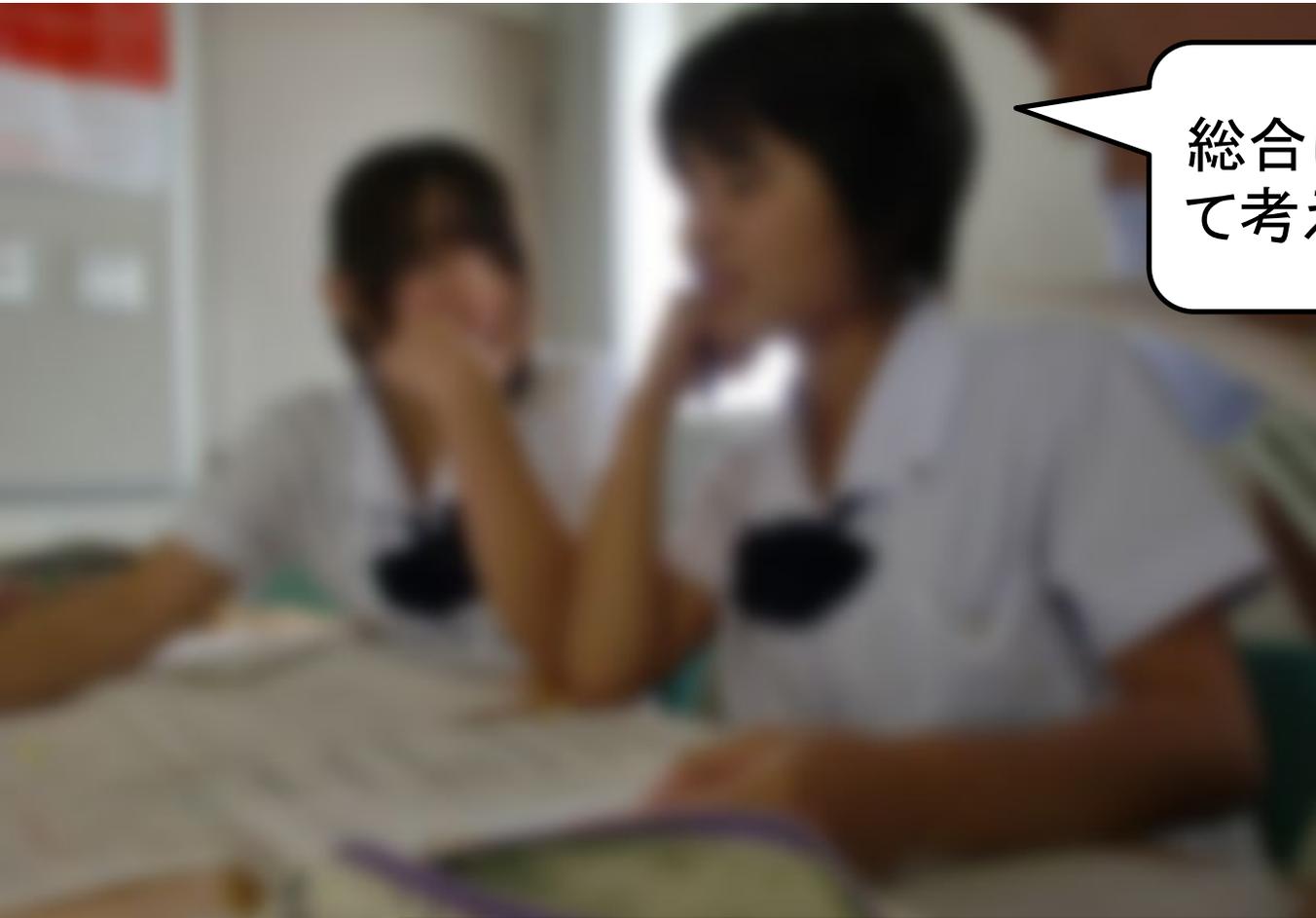


総合は、地域のことを学ぶこと。  
自分で考えて、自分で決めて、  
自分で行動する時間。



総合は、考える時間。教科  
は、答えを出す時間。総合  
だと、意見を出し合うので互  
いにわかり合えて、みんな  
の良さに気付く。

## 中学校 総合的な学習の時間



総合は答えのない問題について考える時間。だから面白い。



教科は教えてもらう学習。総合は、それを生かして、自分で取り組む学習。みんなで話し合ったり、調べたりする学習は楽しい。

# 総合的な学習(探究)の時間の経緯

\* 昭和51年以来の研究開発学校等において実践研究

## ○平成10年(1998):学習指導要領の改訂

総合的な学習の時間の創設

- ・各学校が創意工夫を生かした特色ある教育活動
- ・教科等を超えた横断的・総合的な学習

## ○平成15年(2003):学習指導要領の一部改正

総合的な学習の時間の一層の充実

- ・各教科等の知識や技能等の相互関連
- ・各学校における目標・内容の設定と全体計画の作成
- ・教師による適切な指導や教育資源の活用

## ○平成20年(2008):学習指導要領の改訂

総合的な学習の時間の必要性和重要性の再確認

- ・時間数を縮減
- ・各学校で設定する位置付けの明確化
- ・横断的・総合的な学習や探究的な学習の推進

## ○平成29年(2017):学習指導要領の改訂

総合的な学習(探究)の時間を中核とした教育課程編成

- ・総則に教育課程上の役割を明記
- ・目標、内容の改善
- ・教科横断的なカリキュラムマネジメントの中核

## ①「初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について(答申)」中央教育審議会(平成15年10月)

『総合的な学習の時間』については、その趣旨に即した創意工夫あふれる取組が増加する一方で、「目標」や「内容」が明確でなく検証・評価が不十分な実態が明らかになってきた。また、教員が必要かつ適切な指導を行えず、**教育的な効果が十分上がっていない取組**も見られる実態が、中央教育審議会の答申において示された。

『総合的な学習の時間』は、横断的・総合的な学習や児童の興味・関心等に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を行うことにより、学び方やものの考え方の習得、主体的な問題解決等への態度の育成、生き方についての自覚の深化等を目指すことにより[生きる力]をはぐくむことをその趣旨及びねらいとしている。このことから、**学習指導要領の記述を見直し、その趣旨を一層明確化すべき**こと、各教科等の学習内容との相互の関連や計画的な指導、学年間・学校間・学校段階間の連携等を明示すべきこと、などの提言が行われた。

## ②学習指導要領の一部改正(平成15年12月:小中高等学校)

①に示した答申を受け、平成15年12月の学習指導要領の一部が改正された。そこでは、学習指導要領の基準性を踏まえた指導の一層の充実、個に応じた指導の一層の充実などと並んで、総合的な学習の時間の一層の充実が示された。

『総合的な学習の時間』については、**ねらいを追記**したこと、**目標及び内容の記述や全体計画の作成**を明確に規定したこと、**適切な指導の必要性**を明らかにしたことなどが挙げられる。

# 総合的な学習(探究)の時間の経緯

\* 昭和51年以来の研究開発学校等において実践研究

## ○平成10年(1998):学習指導要領の改訂

総合的な学習の時間の創設

- ・各学校が創意工夫を生かした特色ある教育活動
- ・教科等を超えた横断的・総合的な学習

## ○平成15年(2003):学習指導要領の一部改正

総合的な学習の時間の一層の充実

- ・各教科等の知識や技能等の相互関連
- ・各学校における目標・内容の設定と全体計画の作成
- ・教師による適切な指導や教育資源の活用

## ○平成20年(2008):学習指導要領の改訂

総合的な学習の時間の必要性和重要性の再確認

- ・時間数を縮減
- ・各学校で設定する位置付けの明確化
- ・横断的・総合的な学習や探究的な学習の推進

## ○平成29年(2017):学習指導要領の改訂

総合的な学習(探究)の時間を中核とした教育課程編成

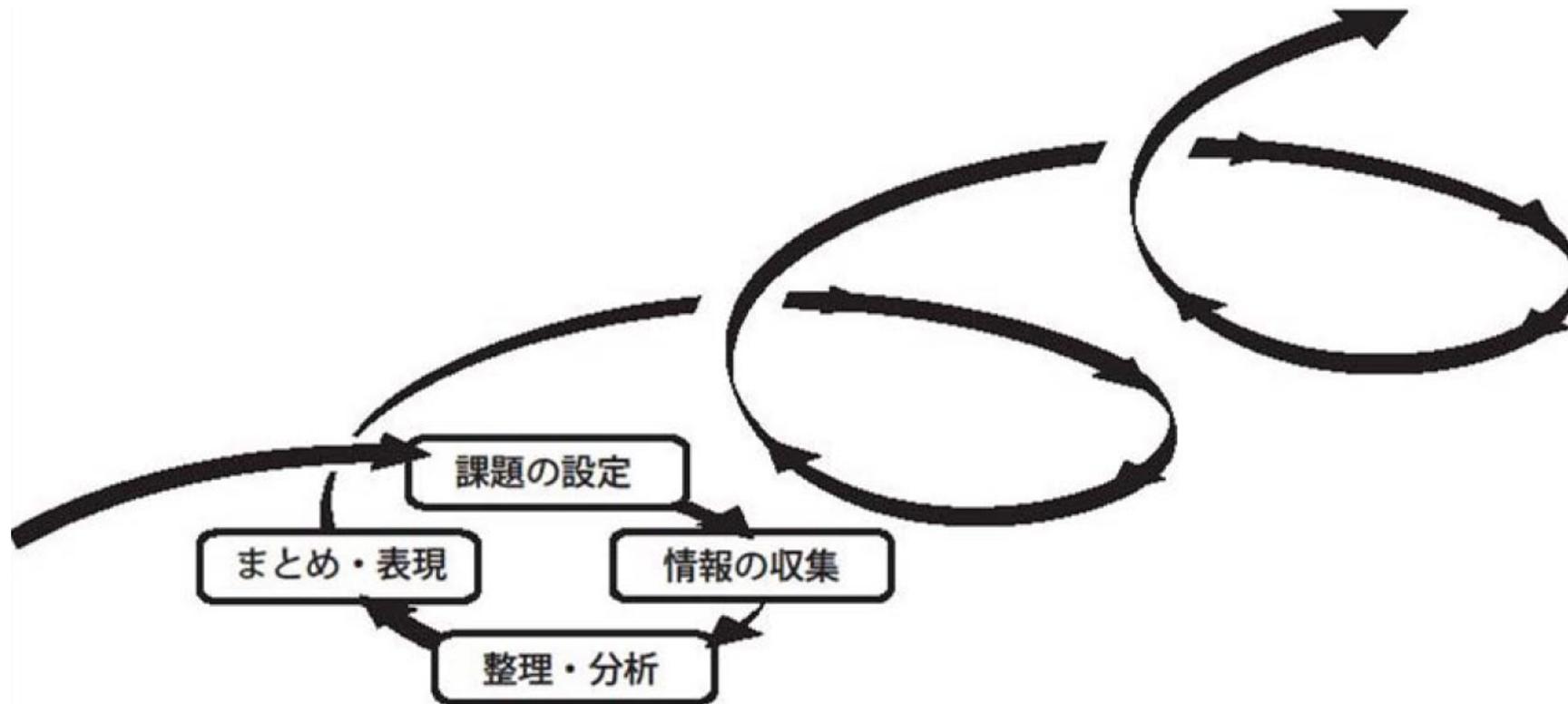
- ・総則に教育課程上の役割を明記
- ・目標、内容の改善
- ・教科横断的なカリキュラムマネジメントの中核

## ①「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)」中央きよいく審議会(平成20年1月)

一部改訂の時と同様、学校間格差が課題として示され、「子どもたちに育てたい力(身に付けさせたい力)や学習活動の示し方について検討する必要がある」と汎用的能力の育成及び横断的な課題を扱うことについて、その学習指導要領上の表記について言及している。答申では、『総合的な学習の時間』の改善の基本方針について、これからの「知識基盤社会」においては『総合的な学習の時間』はますます重要な役割を果たすものであるとした上で、『総合的な学習の時間』については、体験的な学習に配慮しつつ、教科等の枠を超えた**横断的・総合的な学習**や**探究的な学習**となるよう充実を図ることが示された。そのためにも、学習指導要領総則に示していた『総合的な学習の時間』を新たな章として取り出し、その位置付けを明確にすることとした。また、『総合的な学習の時間』と他教科等との役割を明確にするためにも、『総合的な学習の時間』のねらいや**育てようとする資質や能力及び態度を明らかにすること**なども示された。

## ②学習指導要領の改訂・告示(平成20年:小中学校、平成21年:高等学校)

汎用的能力を育成し、横断的・総合的課題を扱うとする総合的な学習の時間の特徴を示す最も象徴的な言葉が「探究的な学習」という言葉であり、このキーワードが『総合的な学習の時間』の目標に加えられた。また、育成すべき汎用的能力として「学習方法に関すること、自分自身に関すること、他者や社会とのかかわりに関すること」を例示した。そして、『総合的な学習の時間』では問題の解決や探究活動を行うこととし、具体的には「**①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現**」とする**探究の過程**も示された。汎用的能力の育成に向けて、『総合的な学習の時間』を探究的に行うことを明示したと言える。他方、横断的・総合的な課題の扱いについては、学習指導要領解説において、内容として各学校が学習課題を定めることを明示した。加えて、小学校、中学校などの学校種毎に行う学習活動の事例を踏まえて、具体的な学習課題を指導資料で例示するなどした。このように『総合的な学習の時間』は、**探究的な学習によって汎用的能力を育成する中核の時間である**こと、そのためにも現代社会の課題などの横断的・総合的な課題を取り上げること、そして、各学校においてそうした学習活動が展開されるよう**カリキュラムを自立的に編成することが鮮明になった**ことができる。



■ 日常生活や社会に目を向け、児童・生徒が自ら課題を設定する。

■ 探究の過程を経由する。  
① 課題の設定  
② 情報の収集  
③ 整理・分析  
④ まとめ・表現

■ 自らの考えや課題が新たに更新され、探究の過程が繰り返される

# 総合的な学習の時間における 探究のプロセス

## 探究のプロセス

(総合的な学習の時間)

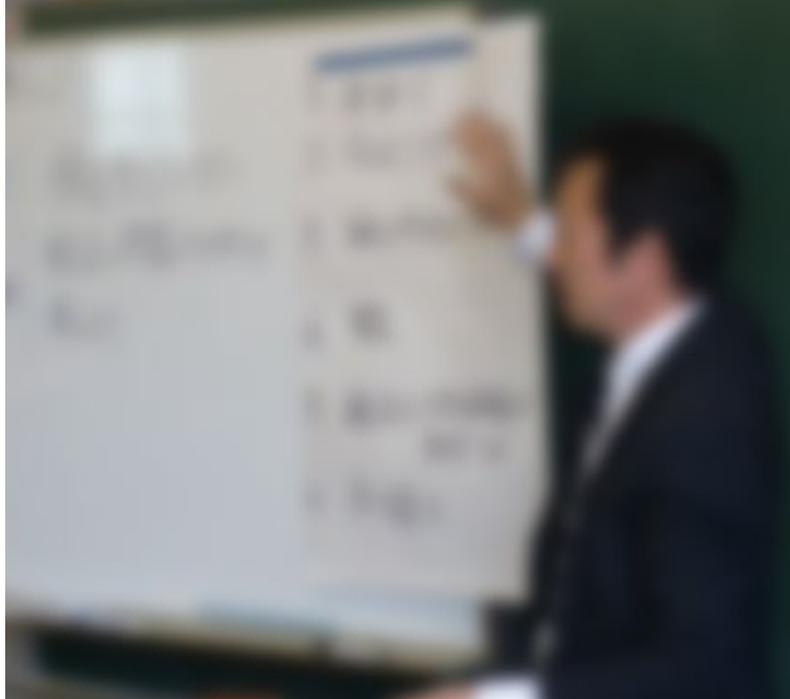
- ① 課題の設定: 体験的な活動等を通じて課題意識をもつ
- ② 情報の収集: 必要な情報を取り出したり、収集したりする
- ③ 整理・分析: 収集し、取り出した情報を整理、分析する
- ④ まとめ・表現: 気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する

## 読解のプロセス

(PISA型読解力)

- 情報へのアクセス・取り出し
- 統合・解釈
- 熟考・評価

# ①課題の設定

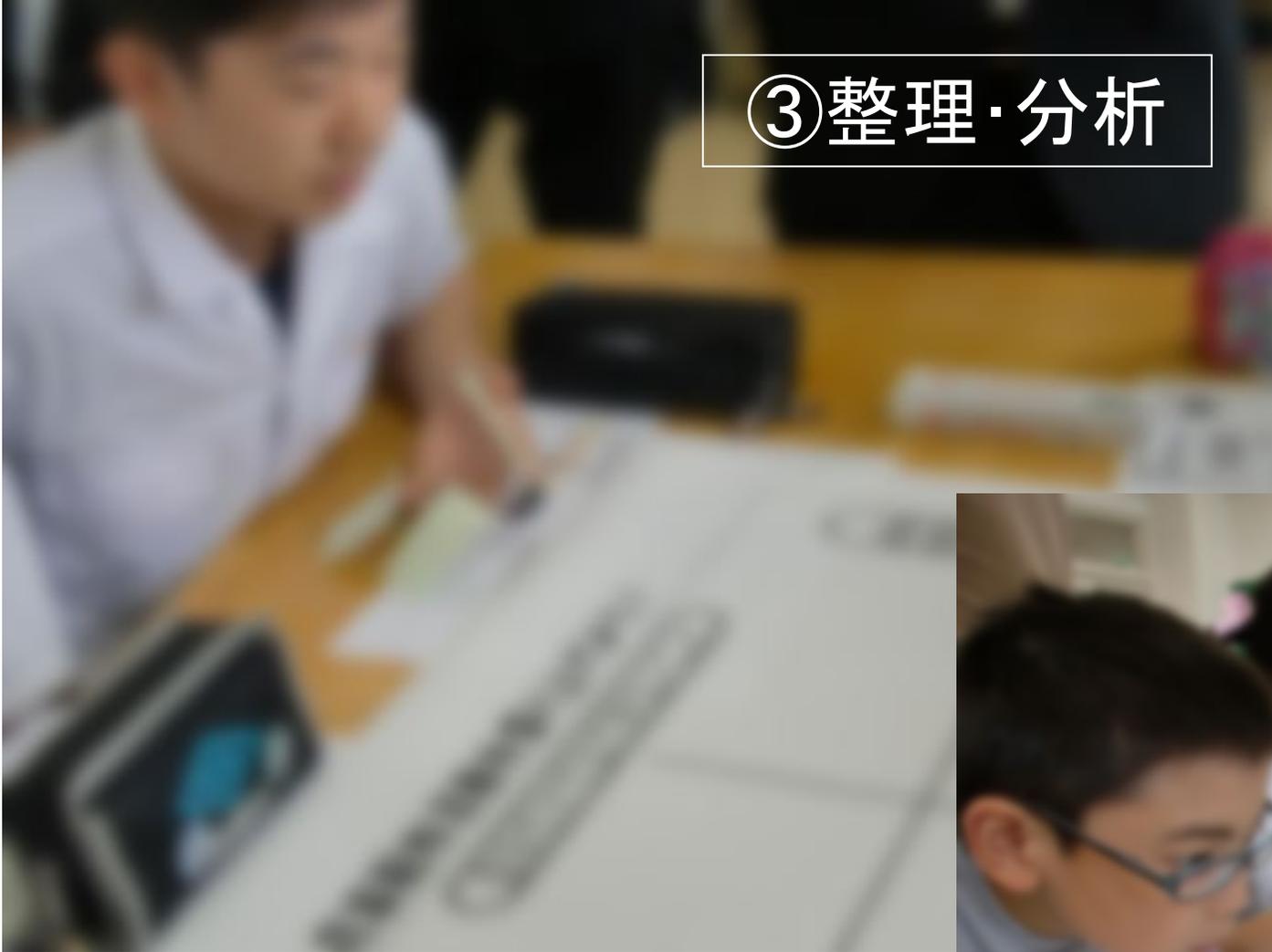




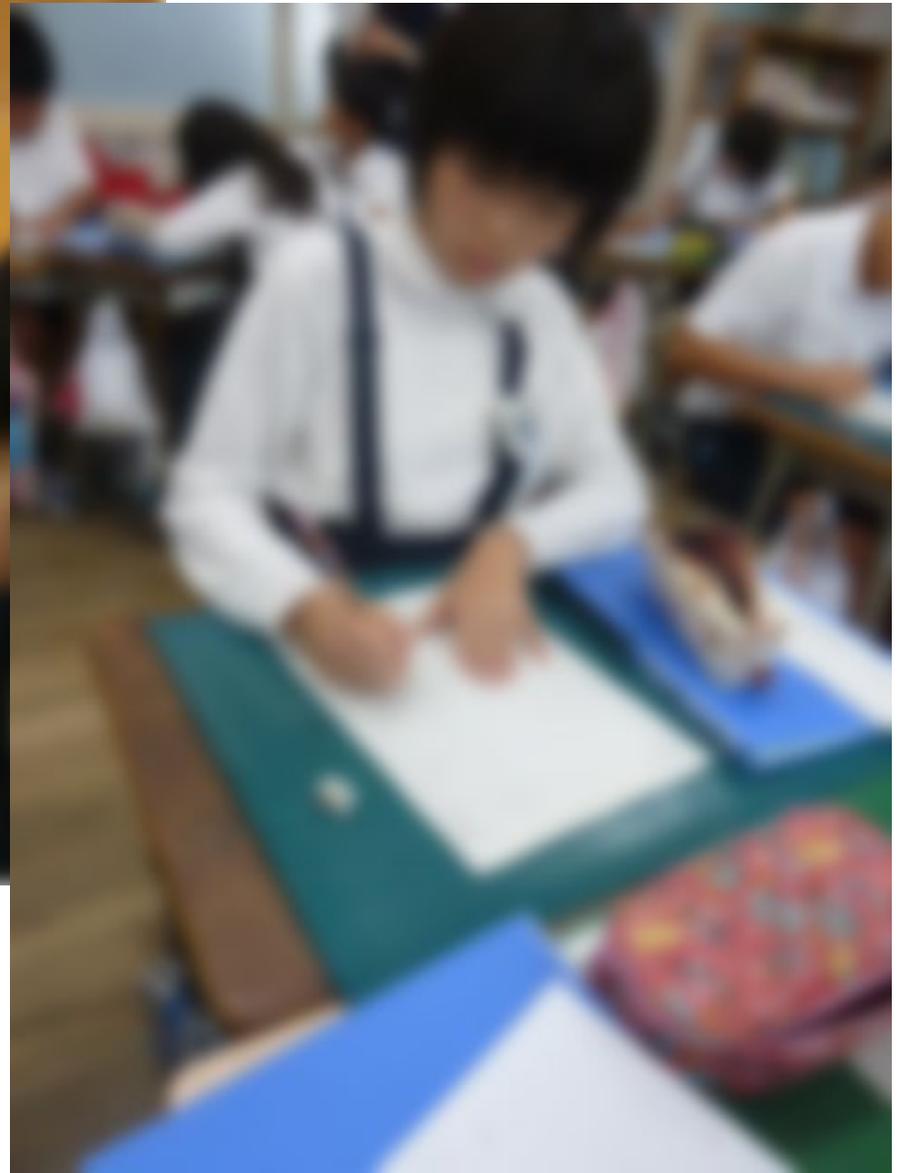
②情報の収集



### ③整理·分析



## ④まとめ・表現



# 総合的な学習の時間に対する保護者の意識

## ■「学校教育に対する保護者の意識調査」

(朝日新聞・ベネッセ教育研究開発センター、平成25年(2013).3. 28)

Q「総合的な学習の時間の削減」(平成20年調査→平成24年調査)

- ・「賛成」「どちらかといえば賛成」:48.0%→23.8%
- ・「反対」「どちらかといえば反対」:36.8%→51.8%

Q「どのような学力を期待するか」

- ・課題を発見する力:86.2%
- ・論理的に考える力:84.1%
- ・物事を多面的に考える力:87.9%
- ・主体的に行動する力:88.8%
- ・受験に役立つ学力:67.4%

総合的な学習の時間に  
期待する保護者が増加

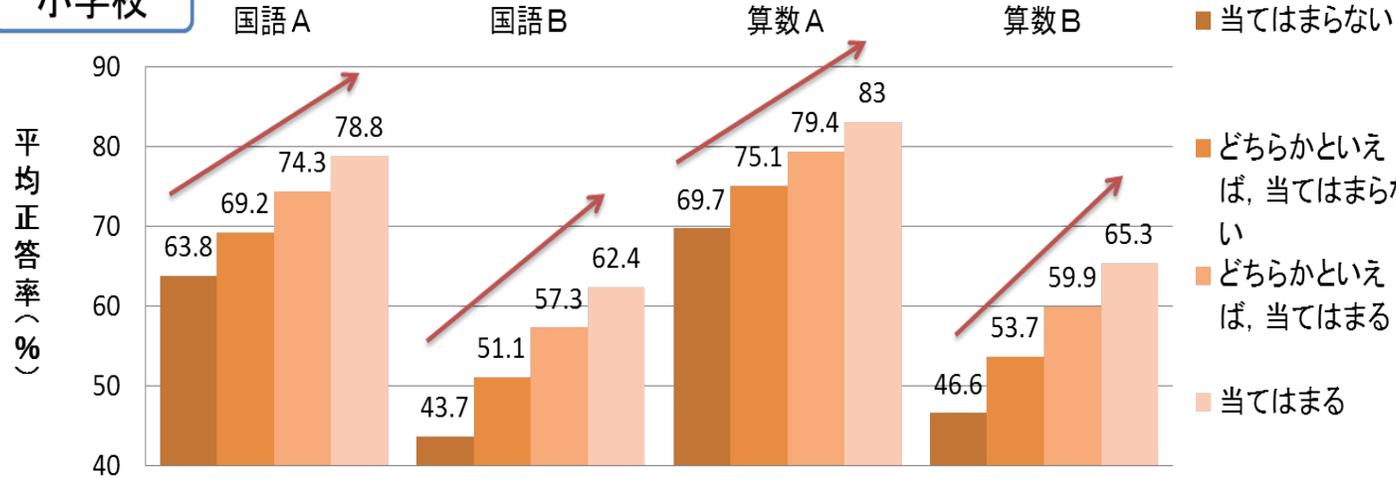
総合的な学習の時間を通じて  
育成される学力に期待

# 総合的な学習の時間

## H26(2014) 学力・学習状況調査

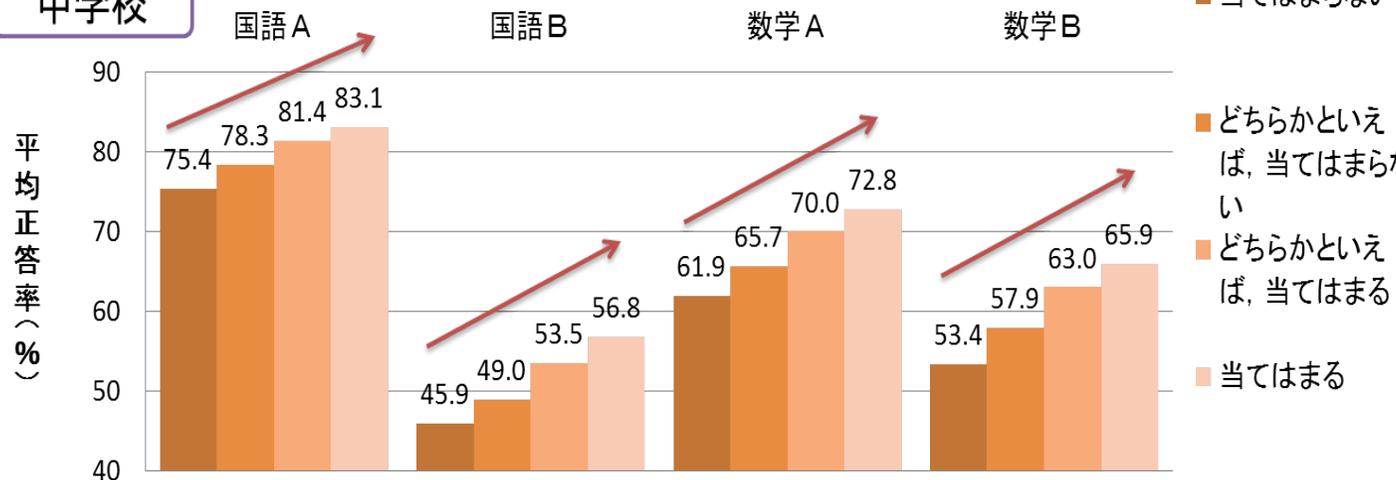
児童(生徒)質問紙(40):「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」

### 小学校



小学校	相関が見られた都道府県数
国語A	47
国語B	47
算数A	47
算数B	47

### 中学校



中学校	相関が見られた都道府県数
国語A	39
国語B	41
数学A	44
数学B	44

人工知能（AI）とグローバル化の時代を生きる力を育むため、探究的な学びや英語教育などを拡充した次期学習指導要領の実施に向けた議論が中央教育審議会で始まった。最大の焦点は先生たちの負担軽減だが、手間と時間がかかることを重要な学びを削ぎ去ってしまうことは本末転倒だ。各国の教育事情に精通し、その影響力から「世界の教育大臣」と呼ばれる経済協力開発機構（OECD）の幹部には、日本の動きはどう映っているのか。（聞き手 服部真）

# 迫る

編集委員が

— OECDの国際学習到達度調査PIISAでは、日本は世界最高水準だ。教育政策はこれでいいのかが、「公平な制度」という点では世界に類がない。過去15年の成績を見ると、日本の15歳は教科を超えて考えたり、自由回答の問題に答えたりできるようになった。とはいえ最も優秀な生徒の割合も含め、さらに上位のシンガポールなどには大きく引き離されている。「勉強の仕方にも課題がある。かつて日本の生徒たちは記憶中心の勉強をしており、イギリスは今でもそうだが、日本はすっかり脱却し、自分で優先度や目標を決め、計画的に学ぶようになった。だが、様々な知識や情報と自分で関連つけて学ぶ生徒は少なく、日本は世界で下位グループだ」——「関連つけて学ぶ」とは、どういうことか。「例えは数学の勉強をす

## 総合学習 学力アップの鍵

数学的応用力の平均点 (PISA2015より)

シンガポール	560
香港	550
台湾	540
日本	530
韓国	520
フィンランド	510
ドイツ	500
フランス	490
イギリス	490
OECD 平均	480
アメリカ	470

### 上位国「探究」をより重視

学習指導要領 国が定める学習課程の基準。おおむね10年ごとに改定され、次期指導要領は小・中学校は今年3月、高校は今年度中に告示。小学3年から英語を始めることや、総合学習に代表される探究的な学びを全教科、全校種で拡充することを柱。小・中学校の総合学習は来年度から実施される。

総合学習 課題解決の思考プロセスである「探究」の方法を学ぶもので、小・中学校と高校で実施。身近な疑問や教科を超えた現代社会の問題を題材に、各教科の見方・考え方を総動員して取り組む。

### 教師の負担軽減は

れからどんどん低くなる。記憶するのはAIが得意だ

「日本の新しい学習指導要領から、公式や地名・人名を一生懸命覚えるよりも、数学者や歴史家のように考える力の育成に絞る方がいい」

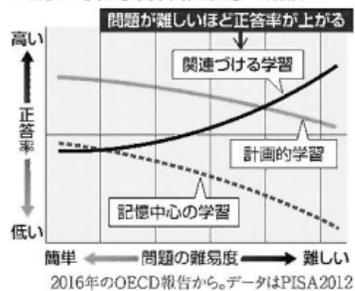
る時に、理科や社会の知識と結びつけて理解したり、日常生活での使い方を考えたりするようになった。数学では簡単な問題なら記憶中心の勉強でよく、やや難しい問題までなら計画的学習で対応できるが、最高難度の問題だと、他の知識と関連づけることが欠かせない。現代社会の問題は複雑な情報や知識構造の中にあり、知っていることから推測することは重要だ。

#### 勉強の仕方(学習戦略)

記憶中心の学習 (記憶戦略)	演習やドリルなど繰り返し中心。質よりも回数や問題数を重視する
計画的学習 (自己制御戦略)	自分で目標を決め、優先順位を自分で考えて計画を立て、振り返り見通して進捗状況を管理しながら効率的に学ぶ
関連づける学習 (精緻化戦略)	図形の勉強で図画工作を思い出すなど、新しい知識を既知の知識や他分野の知識・情報、体験などに結びつける。理解を強化し、記憶の定着も促す

OECDの資料を参考に作成。数学では「計画」と「関連づけ」の両方ができると最も効果がある

#### 生徒が使う学習戦略と数学の成績



### OECD 教育・スキル局長 アンドレアス・シュライヒャー氏 53



竹田津敏史撮影

Andreas Schleicher ドイツ生まれ。独ハンブルク大物理学部卒、蔵ティーン大修士。IEA（国際教育到達度評価学会）などを経て、1994年からOECD勤務。国際学習到達度調査（PIISA）、国際教員指導環境調査（TALIS）などを創設。

教師の余裕 作る必要

# 総合的な学習(探究)の時間の経緯

\* 昭和51年以来の研究開発学校等において実践研究

## ○平成10年(1998):学習指導要領の改訂

総合的な学習の時間の創設

- ・各学校が創意工夫を生かした特色ある教育活動
- ・教科等を超えた横断的・総合的な学習

## ○平成15年(2003):学習指導要領の一部改正

総合的な学習の時間の一層の充実

- ・各教科等の知識や技能等の相互関連
- ・各学校における目標・内容の設定と全体計画の作成
- ・教師による適切な指導や教育資源の活用

## ○平成20年(2008):学習指導要領の改訂

総合的な学習の時間の必要性和重要性の再確認

- ・時間数を縮減
- ・各学校で設定する位置付けの明確化
- ・横断的・総合的な学習や探究的な学習の推進

## ○平成29年(2017):学習指導要領の改訂

総合的な学習(探究)の時間を中核とした教育課程編成

- ・総則に教育課程上の役割を明記
- ・目標、内容の改善
- ・教科横断的なカリキュラムマネジメントの中核

## ①「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」中央教育審議会(平成28年12月)

総合的な学習の時間については、以下のような課題がある。一つ目は、総合的な学習の時間を通してどのような資質・能力を育成するのかということや、総合的な学習の時間と各教科等との関連を明らかにすることについては学校により差がある。これまで以上に総合的な学習の時間と各教科等の相互の関わりを意識しながら、**学校全体で育てたい資質・能力に対応したカリキュラム・マネジメント**が行われるようにすることが求められている。二つ目は、探究のプロセスの中でも「整理・分析」「まとめ・表現」に対する取組が十分ではないという課題がある。**探究のプロセスを通じた一人一人の資質・能力の向上**をより一層意識することが求められる。三つ目は、高等学校については、地域の活性化につながるような事例が生まれている一方で、本来の趣旨を実現できていない学校もあり、小・中学校の取組の成果の上に**高等学校にふさわしい実践**が十分展開されているとは言えない状況にある。

## ②学習指導要領の改訂・告示(平成29年:小中学校、平成30年:高等学校)

**総則において、教育目標との関連を図ることが明示され、高等学校においては、「総合的な探究の時間」と名称が変更した。**総合的な学習の時間で育成を目指す資質・能力を明確にするとともに、各教科等の相互の関わりを意識しながら、学校全体で育成を目指す資質・能力に対応したカリキュラム・マネジメントが行われるようにすることが求められた。また、探究のプロセスの中でも「整理・分析」「まとめ・表現」に対する取組が十分ではないことから、探究のプロセスを通じた資質・能力の育成をより一層意識することが求められた。具体的には、**総合的な学習の時間で育成を目指す資質・能力を明示し、各学校において目標や内容を明確に定めることとした。**探究的な学習の中で、各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活の中で総合的に活用できるものとなるよう工夫することとした。教科等を超えた全ての学習の基盤となる資質・能力を育成するため、課題を探究する中で、協働して課題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりする学習活動(比較する、分類する、関連付けるなどの、「考えるための技法」を活用する)、コンピュータ等を活用して、情報を収集・整理・発信する学習活動(**情報手段の基本的な操作を習得し、情報や情報手段を主体的に選択、活用できるようにすることを含む**)が行われるように示した。

## 1 各学校の教育目標と教育課程の編成

### 1 各学校の教育目標と教育課程の編成

教育課程の編成に当たっては、学校教育全体や各教科・科目等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえつつ、各学校の教育目標を明確にするとともに、教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めるものとする。その際、第4章(総合的な探究の時間)の第2の1に基づき定められる目標との関連を図るものとする。

## 2 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

### 2 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

(1) 各学校においては、生徒の発達段階を考慮し、言語能力、情報活用能力(情報モラルを含む。)、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科・科目等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。

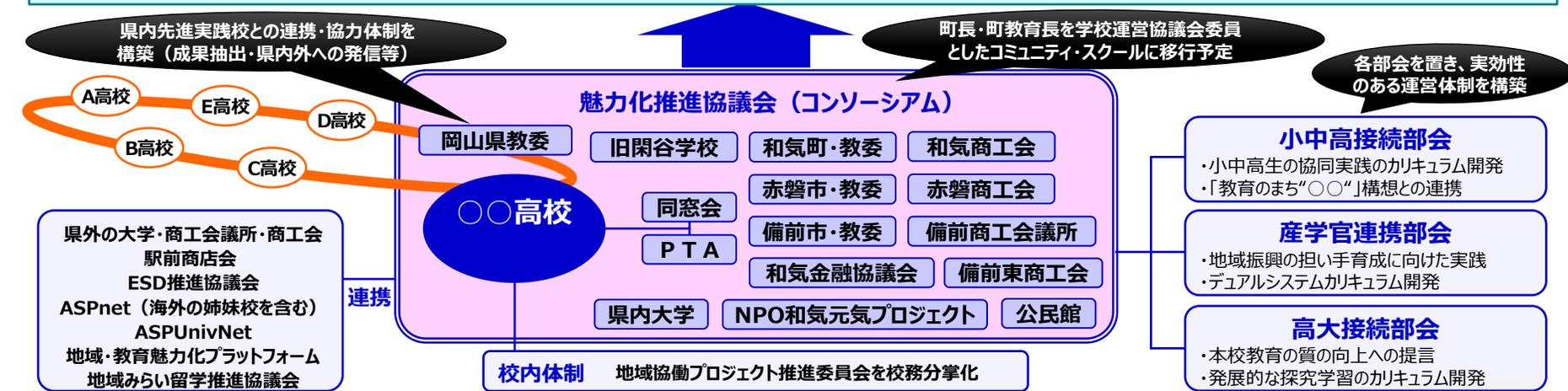
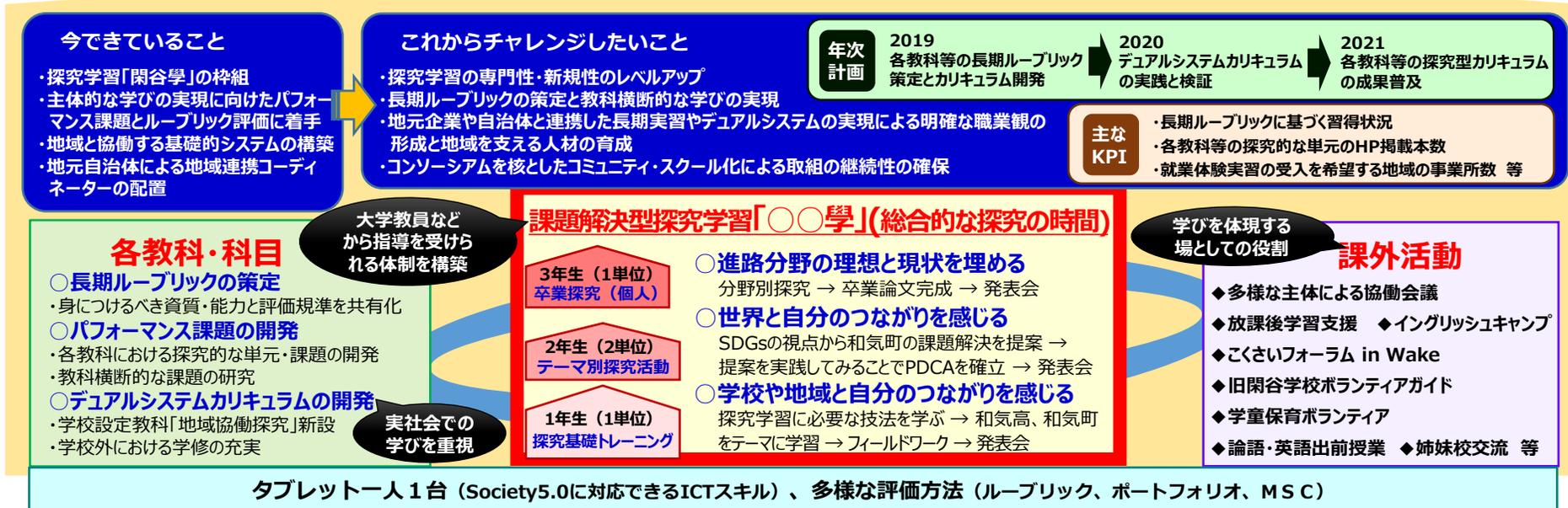
(2) 各学校においては、生徒や学校、地域の実態及び生徒の発達段階を考慮し、豊かな人生の実現や災害等を乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を、教科等横断的な視点で育成していくことができるよう、各学校の特色を生かした教育課程の編成を図るものとする。

〇〇県立〇〇高等学校  
 研究開発構想名：「恕」の精神を持って地域と協働する探究人の包括的育成



## 育む7つの力

自分を理解する力 職業とつなぐ力 考える力 行動する力 コミュニケーション力 チームワーク力 自立する力



# 高等学校における総合的な探究の時間（探究のプロセス）

## 「総合的な**探究**の時間」の目標（高等学校）

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。

(2) 現実の世界と自己との関わりの中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

### ■高度

- ・目的と方法の**整合性**
- ・使用し活用する**効果性**
- ・焦点化される**鋭角性**
- ・視点を広げる**広角性**

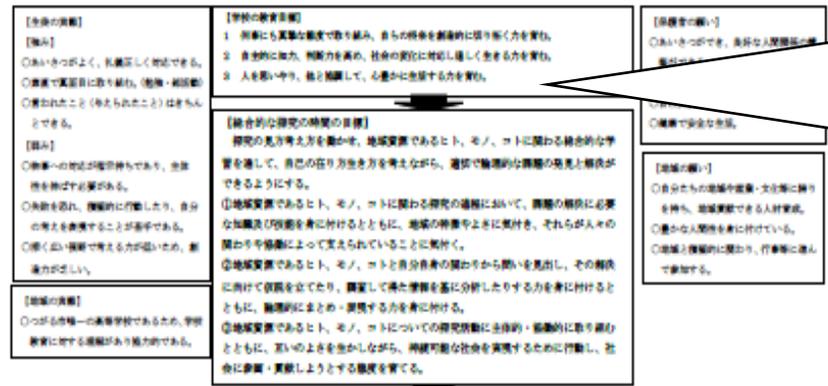
### ■自律

- ・自分にとって関わりが深い課題になる〔**課題**〕
- ・プロセスを見通し、自分で解決するようになる〔**運用**〕
- ・知見を生活や行為に結び付けて考えるようになる〔**参画**〕

課題の設定

# 探究 → 高度・自律

## 令和元年度 「総合的な探究の時間」 全体計画



■学校の教育目標を受けて総合的な探究の時間の目標、内容が設定されている。

- 学校の教育目標  
 自らの将来を創造的に切り拓く力、  
 社会の変化に対応し逞しく生きる力  
 他と協調して、心豊かに生活する力 など
- 総合的な探究の時間の目標  
 地域資源に関わる総合的な学習を通して自己の在り方生き方を考えながら、適切で論理的な課題の発見と解決ができるようにする。

【内容】<目標を実現するにあたり探究課題と探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力>

学年	1年次（5.5時間）	2年次（5.5時間）	3年次（7.0時間）
テーマ	つながるのお宝探究	地域未来探究	私が生きる未来探究
探究課題	地域の自然や文化・産業とその継承に取り組む人々や組織	人口減少の抑制や交流人口増加を目指す住みよい町づくりと地域活性化に向けた取組	変化する社会と職業の選択
探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の歴史や文化から課題を抽出し、理解する。</li> <li>地域の人が大切に、古くから守り継いでいることを理解している。</li> <li>昔と今の現状を比較し、地域の課題を発見することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>住みよい町づくりと地域活性化の取組に関わる人々の思いや願いを理解している。</li> <li>町づくりと自分との関わりをイメージすることができる。</li> <li>課題を多面的に見る、考えを具体化するなど、探究の過程に応じた技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの在り方・生き方を考え、社会にどう関わりたいかを理解している。</li> <li>グローバルな視点・ローカルな視点等の広い視野を養い、考えを具体化するなど、探究の過程に応じた技能を身に付けている。</li> </ul>
【探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力】	<ul style="list-style-type: none"> <li>【課題の発見】</li> <li>【課題の解決】</li> <li>【課題の振り返り】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【課題の発見】</li> <li>【課題の解決】</li> <li>【課題の振り返り】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【課題の発見】</li> <li>【課題の解決】</li> <li>【課題の振り返り】</li> </ul>

■3年間のテーマや探究課題が体系的に設定されている。

- 1年次「つながるのお宝探究」地域の自然や文化・産業とその継承に取り組む人々や組織
- 2年次「地域未来探究」人口減少の抑制や交流人口増加を目指す住みよい町づくりと地域活性化に向けた取組
- 3年次「私が生きる未来探究」変化する社会と職業の選択

【学習活動】	【指導方法】	【評価】	【学習評価】
<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の歴史、生活の実態を調べ、探究課題を設定する。</li> <li>地域のヒト、モノ、コトを軸とした学習活動を行う。</li> <li>学習成果を表現する場として12月に学習成果発表会を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の探究意欲を向上させる支援と工夫を行う。</li> <li>主体的な探究活動を実施する。</li> <li>各教科等との関連した指導を行う。</li> <li>実践に即して指導を行う。</li> <li>学習に即して指導を行う。</li> <li>学習に即して指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>探究活動における校内の連携や校外との連携を評価する。</li> <li>探究活動における主体的な探究活動の進捗を評価する。</li> <li>探究活動における主体的な探究活動の進捗を評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポートフォリオを活用した評価の充実を図る。</li> <li>探究活動における主体的な探究活動の進捗を評価する。</li> <li>探究活動における主体的な探究活動の進捗を評価する。</li> </ul>

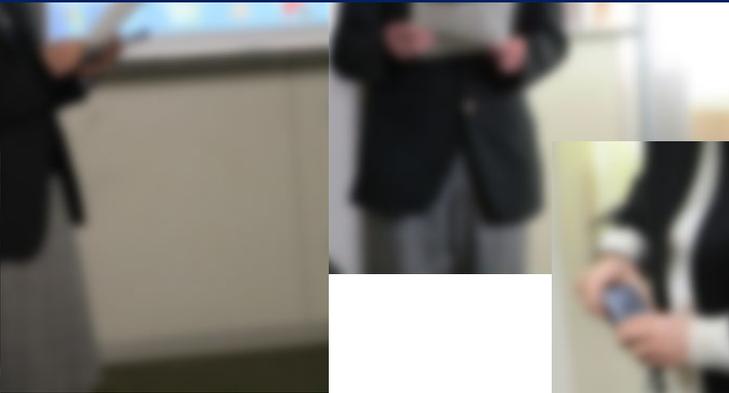
■育成を目指す資質・能力の三つの柱が明確に設定されている。

教科等を超えた全ての学習の基盤となる資質・能力	
各教科等との関連	資質・能力
<ul style="list-style-type: none"> <li>【各教科等との関連】</li> <li>【資質・能力】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【資質・能力】</li> <li>【資質・能力】</li> <li>【資質・能力】</li> </ul>

■教科等を超えた全ての学習の基盤となる資質・能力、各教科等との関連が明確に示されている。



# 探究的で協働的な学び



# 「探究のプロセス」の充実

「探究のプロセス」では、各教科等で育成された資質・能力が繰り返し活用・発揮され、確かなものとして身に付いていく。他教科等と総合的な探究の時間とは、相互に関連しながら、実際の社会で活用できる資質・能力を育成していく。



■課題の設定(実社会の問題状況に関わる課題、進路や教科学習に関わる課題などを設定)



■情報の収集(文献検索、ネット検索、インタビュー、アンケート、実験、フィールドワーク等で収集)

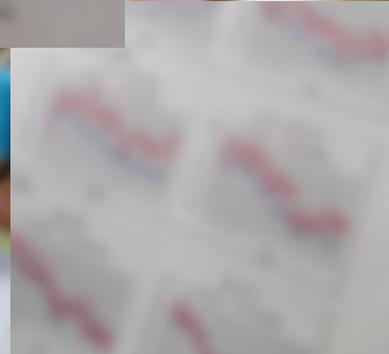
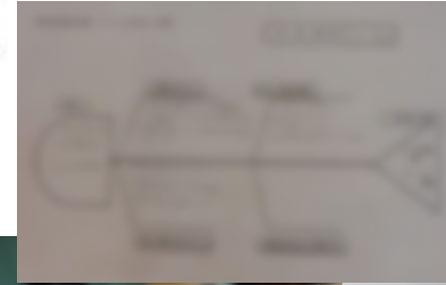


## 横断的で学際的な学び

■まとめ  
レゼンテ  
セッション



による分  
析、思考ツール、テキストマイ  
ニング等で分析)



# 総合的な学習(探究)の時間



前半グループ 13:05-13:15	
Booth①	Living in Harmony with Nature
Booth②	Happiness of Japan
Booth③	The ways for Japanese Foreigners ～Fall in Love in Foreign Countries～
Booth④	MAKE JAPAN SUSTAINABLE
Booth⑤	Plans to improve the Finances of Rural Areas
Booth⑤	Peace Education all over the World.

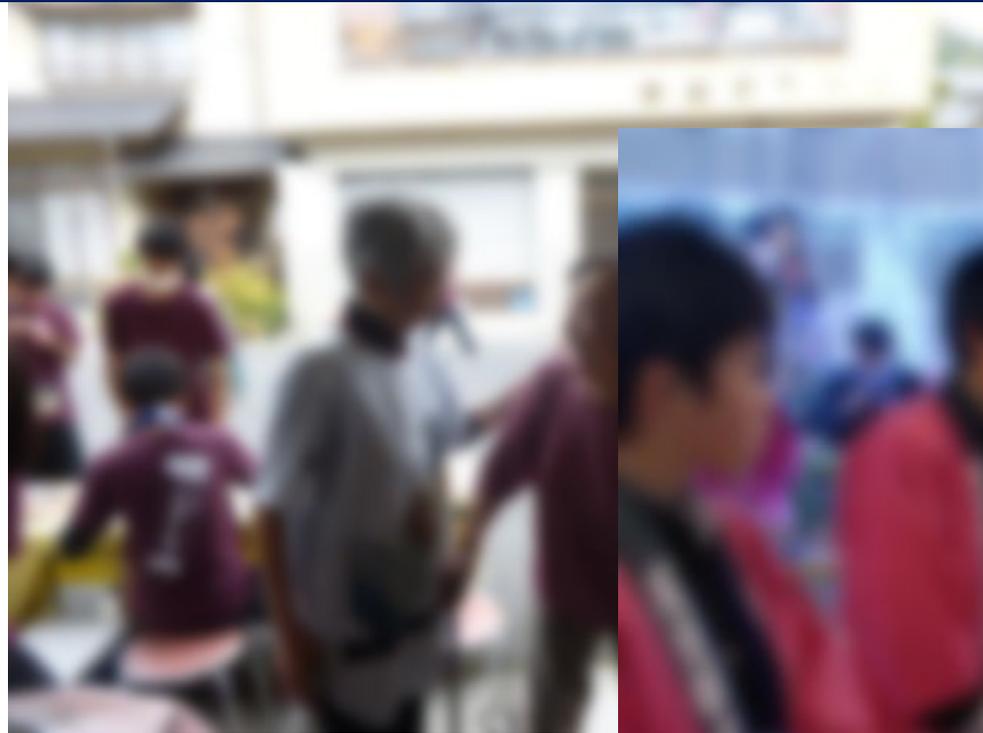


## SDGs



Before beginning the session, let me tell you about our research projects. Our research projects are all based on SDGs, Sustainable Development Goals, which was adopted at United Nations in 2015. Last year, we mainly focused on local issues related to the global affairs and these SDGs. To conduct the research, we carried out some fieldworks in Ishikawa Prefecture and in the United States of America. They helped us understand things from different perspectives. And this year, we did our research on global issues and activities. For example, how does our research relate to global issues and how can they be solved? Is there any way that we, high school students can contribute to the SDGs? Today we would like to present everything that we learned and thought through the research.





地域活性化・地方創生

# 探究のプロセスにおけるデジタル学習基盤の価値等について(私案)

	1. 課題の設定	2. 情報の収集	3. 整理・分析	4. まとめ・表現
①価値	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題設定の質向上と意欲の持続性</li> <li>・質の高い課題設定が可能、課題解決の見通しを明示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収集する情報の豊かさ</li> <li>・大量で、多様で、高速に、時空間を超えた情報を収集可能、情報の集積や蓄積が可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質の高い処理過程と思考力の発揮</li> <li>・大量で多様な情報の複雑な処理、可視化され操作化できる整理分析、質の異なる情報処理の可能性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな表現と自らの学びの振り返り</li> <li>・分かりやすい表現を短時間で作成し、広域に発信、学びの蓄積と履歴の検索</li> </ul>
②特徴的な強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インパクトのある対象との出会い</li> <li>・デジタルデータによる違和感の強調</li> <li>・デジタルデータによる憧れの創出</li> <li>・やり取りと繰り返しによる問いや見通しの明確化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な種類の情報（言語、写真、動画など）を収集、蓄積</li> <li>・多様な方法（文献、ネット、インタビューなど）で収集、蓄積</li> <li>・大量の情報を整理、蓄積</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様で大量の情報の整理分析</li> <li>・複雑な情報の整理分析</li> <li>・可視化され操作化できる整理分析</li> <li>・安定的保存と再現可能性の高さ</li> <li>・整理した情報の加工しやすさ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や相手に応じた表現</li> <li>・イメージに近い質の高い表現</li> <li>・広域、社会的に発信</li> <li>・蓄積情報の検索と再構成ができる</li> <li>・短時間での作成、修正、改善</li> </ul>
③具体的な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バーチャル体験（アバター）による課題設定</li> <li>・情報の比較による問題状況からの課題設定</li> <li>・モデルをイメージさせる理想状況からの目標設定</li> <li>・ゴールイメージの具体化からの目標設定</li> <li>・AIとの対話による問いの課題化</li> <li>・AIを使った課題のブラッシュアップ</li> <li>・AIを使った仮説、検証の流れのブラッシュアップ</li> <li>・活動計画の作成と共有、修正</li> <li>・教科学習での課題からの設定</li> <li>・先行研究の探索による方向性の確定</li> <li>など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文献検索</li> <li>・ネット検索（検索エンジン、データベース、統計資料など）</li> <li>・アンケート調査（対面、メール、web）</li> <li>・インタビュー調査（対面、オンライン）</li> <li>・実験や観察から収集</li> <li>・体験活動から収集（バーチャル、メタバース）</li> <li>・動画やYouTubeから収集</li> <li>・オンラインでの友達や地域の人との情報交流</li> <li>など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表計算ソフトによる数的データ処理</li> <li>・グラフ（棒、円、折れ線、帯、ヒストグラム）などの数的データ処理</li> <li>・テキストマイニング（ワードクラウド、共起キーワード）などの質的データ処理</li> <li>・マップなどによる空間軸でのデータ処理</li> <li>・デジタル年表などによる時間軸のデータ処理</li> <li>・KJ法などで比較分類する</li> <li>・ウェビングマップなどで関連付ける</li> <li>・マトリックス表や二次元表で多面的に考える</li> <li>・ピラミッドチャートなどで関係を構造化する</li> <li>・ランキング表などで序列化する</li> <li>・フィッシュボーンによる原因の分析</li> <li>・オンラインでの友達や専門家との意見交換で分析する</li> <li>など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート論文をまとめる</li> <li>・活動報告書を作成する</li> <li>・新聞を作成する</li> <li>・ポスターを作成する</li> <li>・プレゼンテーションを作成する</li> <li>・ウェブページを作成する</li> <li>・パンフレットを作成する</li> <li>・動画を作成する</li> <li>・立体作品を作成する（3Dプリンター）</li> <li>・アプリを創作する</li> <li>・プログラミングで創作する</li> <li>・イベントの企画と開催</li> <li>・総合表現</li> <li>・英作文などを作成する</li> <li>など</li> </ul>

# 期待すること

- 学校教育目標の実現に向けて、「総合的な学習(探究)の時間」を中核とした教育課程編成を推進してはどうか
- 学校独自のカリキュラム編成に向けて、「総合的な学習(探究)の時間」を積極的に活用できるようにしてはどうか
- 子供の発達に即した探究を実現するため、学校種間の系統性を確保した「総合的な学習(探究)の時間」を検討してはどうか
- 探究のプロセスを質的に向上させ、学校間格差を縮小するため、「総合的な学習(探究)の時間」において各教科等との関連を一層重視してはどうか